

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年2月29日

事業所名 重症心身障がい児デイサービス ドリーむ 及び ドリーむぽっぷ

		チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	工夫している点・改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	5	利用者の人数に応じて、使用する部屋を使い分ける。各部屋に配置するための職員を確保する。
	2	職員の配置数は適切である	0	2	7	実務経験を経て、児童指導員として勤務できる職員を増やす。正看護師、理学療法士等の専門職員の人数を増やす。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	1	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	0	2	7	ケース検討等を通して、目標の達成度や改善点を話し合う。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	4	研修を通して、保護者の評価表の結果をふまえ、事業所の強みと弱みを見つめ直し、業務改善につなげる。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2	2	ホームページに公開予定である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	6	第三者評価の実施について検討する。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	1	ガイドラインの内容をふまえ、研修内容を吟味する。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	5	適宜、アセスメントを実施し、ニーズに応じたサービスの実施に繋げる。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	5	アセスメントツールが確立されていないため、活用しやすいツールを新たに作成する。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	1	6	入浴サービスを実施しながら、継続可能な活動プログラムを話し合っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	4	ボランティア等の交流の機会を増やし、様々な要素を活動に取り込む。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	2	6	休日は、生活介護の利用者との交流をテーマに、課題を設定する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	0	2	7	個別活動に偏る傾向がある。集団活動を増やせられるよう、改善する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	3	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	0	2	7	連絡ノートを作り、利用者の日々の様子を次回の利用時に引き継げるようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2	4	
関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	3	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	3	5	ガイドラインの読み上げを研修で行い、ケア室内に掲示する。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	1	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2	1	学校に迎えに行く際、先生方と情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2	3	看護指示書を主治医に作成してもらい、ケアに反映している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3	3	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	2	放課後等デイサービスの利用記録を、卒業後に生活介護を利用する際、活用している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	4	児童発達支援センターに研修に行くことを計画している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	5	大学サークルとの交流の場を設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	3	2	
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	2	0	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	5	ペアレント・トレーニングの方法について、学習する機会を設ける。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	3	3	契約時には、資料を提示し、説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	1	2	すぐに管理者に報告をし、即時対応するように心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	0	8	今年度は保護者会を実施できなかったため、来年度は実施したいと考えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	2	0	管理者への即時報告、及び必要に応じて、職員間の連絡ノートを活用し、情報共有をするように心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	3	定期的に会報を発行しているが、頻度をが少ないため、増やしていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	8	1	0	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	2	1	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9	0	0	毎年、なちゅフェスというイベントを開催し、地域の人に参加していただいている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	3	各種マニュアルは、随時確認できるように保管している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	年に2回の避難訓練を行っている。また、必要に応じて安全対策の研修を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	0	職場内研修を通して、虐待防止に対する対応を検討している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	0	2	身体拘束を行う際は、事前に保護者に説明し、同意書に署名を頂いている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	5	サービスを利用する際は、アレルギーの有無について確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	1	ヒヤリハットの記入を充実させたい。